

優秀賞 「一緒に食べる幸せ」

橿原市立橿原中学校 3年 大枝 夏希

「今日は何時に夜ごはんしたらいい？」

毎朝母は、仕事に出かける前、私に尋ねる。

「塾は六時からだから、間に合うようによろしく。」

私は、朝から塾の事は聞かないで……と思いつつ、朝食のパンをかじる。私は、中学三年生受験真只中。一週間のうち、ほぼ毎日と言っていいほど塾通い。始まる時間が六時であったり、七時であったり母も大変だ。

夕方、仕事から帰ってきた母は急いで夕食の支度にとりかかる。学校から帰ってからは小腹がすくが、母のごはんまでもうすぐ。おやつなどは我慢して、とりあえずアイスをかじりながら母に学校での出来事を話す。暑い中、自転車をこいで帰ってきた私は、冷たいアイスが体にしみわたり、生き返る。この一時が塾の前のつかの間の幸せだ。

ふんふん、と相槌をうつものの、聞いているのか聞いていないのか、よくわからない母ではあるが、同時に手際よく夕食ができあがっていく。おみそ汁のだしの香り、今日はお肉？お魚？鼻をくんくんさせながら想像をふくらます。

もう少しかかるかな、そう思いながら部屋へかけ上がり、着替えを済ませ、宿題を片付ける。

「ごはんできたよー！」

母の声で台所へ降りると、今日もおいしそうなホカホカごはん。母は私に合わせて少しごはんを食べ、また習い事から帰ってきた妹にも付き合って食べている。さらに父が帰ってきては、特別に遅くない限り一緒に座って食べるかお茶を飲んでいる。

食べる事、誰かと一緒に食べる事、私はとても大切だと思う。全員がそろわなくても、手作りの食事を母や妹と話しながら食べるとなんだかとてもおいしい。

学校でも家でもみんなと話しながら食べるごはんは、格別だ。だでさえ、食べるのが遅い私。笑いながら食べているうちに、休み時間になってしまったり、塾の開始時刻になってしまったりする。

反省しながらも、私はこんな楽しい日々の食事が大好きだ。

しかし、今の社会では、仕事で忙しい親、塾や部活で忙しい子どもたちが家族全員で食卓を囲む、というのはなかなか難しいのかもしれない。そんな時代だからこそ、時々、仲間や家族全員でとる食事の時間はとても貴重だ。

家の手作り食事でも、また外食でも、私にとっては家族と話し、笑いながら一緒に時間を過ごすことは最高の宝だ。

私は、食事をとりながら心で思う。いつも私に合わせて食事の準備をありがとう。夢に向かって頑張るから、それまでよろしくお願いします。

今日もおいしく「いただきます」そして「ごちそうさま」。